

令和7年度 技術 第1学年「A 材料と加工の技術」 船橋希望学舎 世田谷区立船橋希望中学校

月	指 導 目 標	評 価 基 準	単 元	学 習 内 容	観点	十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	評 価 方 法
4 月 5 月	○技術が生活向上や産業の発展に果たしている役割と、技術の進展と環境との関係について関心をもたせる。	生活を主体的に取り組む態度 ・技術が人間生活を向上させ、我が国における作業の継承と発展に影響を与えていることに気づき、技術が果たす役割について関心を示している。 ・技術が環境問題の原因と解決に深く関わっていることに気づき、技術の進展と環境との関係について関心を示している。	技 術 の 学 習 に お け る ガ イ ド ン ス	①技術分野で学ぶこと ・学習のつながりを考える ②技術を見つけよう ・様々な技術 ・技術のすばらしさ ③技術と私たちの生活 ・技術の進展と生活、産業 ④学習の見通しをもつこと ・実習の進め方と作業の安全	態度	・生活の中にある技術に関心を持ち、その役割に気づくことができる。 ・技術が生活の向上や産業発展に及ぼすことのよい影響に気づくことができる。 ・技術分野の学習とものづくりの進め方や作業場の安全面に関心をもつことができる。	・生活の中にある技術に関心をもつことができる。 ・技術が生活の向上や産業に及ぼしている影響に気づくことができる。 ・作業場の安全に関心を持つことができる	授業観察 レポート ワークシート 定期テスト
6 月 7 月	○よりよい社会を築いていくための材料と加工に関する技術を適切に評価し、活用させる。	生活の思考・判断・表現 ・材料と加工に関する技術の課題を明確にし、社会的環境的及び、経済的側面などから比較検討するとともに適切な解決策を考え出している。	A：材料 と 加 工 の 技 術	①ものづくりの視点と進め方 ・製品の工夫と技術の進歩 ・ものづくりの進め方	態度	・ものづくりの技術や技術の進歩と環境について関心を示すことができる。	・ものづくりの技術と環境について関心をもつことができる。	授業観察 ワークシート 定期テスト 製図（等角図、第三角法による投影図等） 木材加工作品 レポート
9 月		・製作品の使用目的や使用条件を明確にし、社会的、環境的及び経済的側面などから材料の使いやすさ及び丈夫さなどを比較、検討した上で製作品の適切な形状と寸法などを決定している。		②材料 ・様々な材料について ・材料の特徴 ・材料と環境について	知識	・木材や金属及びプラスチックの主な特徴や材料と環境との関わりについての知識を身につけることができる。	・材料の主な特徴について知識を身につけることができる。	
10 月		生活や技術の知識・技能 ・材料に適した切断、切削などの方法についての知識を身につけている。 ・材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解している。 ・切断や切削などに必要な工具や機器を正しい使用法に基づいて適切に操作することができる。 ・製作品の構想を製図の技法で描きあらわすことができる。 ・製作品の設計に基づき安全に作業し、材料取り、部品加工、組立て接合及び仕上げができる。		③設計 ・使用目的と製作品の決定 ・機能の検討 ・構造について ・加工法について ・製図	技能	・使用目的や使用条件によって機能や構造、材料や加工法などを決定できる。 ・製図に必要な記号を理解し、基本的な描きかたを習得し、適切に描くことができる。	・条件に応じた材料や加工方法を考え適切に判断することができる。 ・製図の書き方を学び、設計図を描くことができる。	
11 月				④木材による設計製作 ・部品表と工程表 ・けがき ・切断 ・切削 ・穴あけについて ・部品の検査と修正 ・組立て ・表面仕上げについて	思考 表現	・使用目的や使用条件によって加工方法などを選択し、作業に見通しをもって安全に取り組むことができる。	・条件に応じた材料や加工方法を選択し、安全に作業できる。	
12 月					技能 知識	・工具の特性を理解し、製作品にあった適切な加工ができる。 ・安全な作業方法についての知識を身につけ、意識できている。	・製作品にあった加工を行うことができる。 ・安全な作業方法について知ることができる。	
1 月 2 月					態度			

令和7年度 技術 第1学年 「B 生物育成の技術」 船橋希望学舎 世田谷区立船橋希望中学校

月	指 導 目 標	評 価 基 準	単 元	学 習 内 容	観 点	十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	評 価 方 法
2 月	○よりよい社会を築いていくために生物育成に関する技術を適切に評価し、活用させる。	生活を主体的に取り組む態度 ・生物育成に関する技術の課題を進んで見つけ、社会的、環境的及び経済的側面などから比較、検討しようとするとともに適切な解決策を示そうとしている。	B：生物育成の技術	①私たちの生活と生物育成 ・生物育成とは ・作物の特性と技術	態度	・生物育成に関する技術が生活に果たす役割について関心を示している。	・生物育成に関する技術が果たす役割について知ることができる。	授業観察 ワークシート レポート 定期テスト
3 月	○目的や条件に応じて栽培計画を立てるとともに育成する作物の観察を通して成長の変化を捉え、適切に対応を工夫させる。	生活の思考・判断・表現 ・目的や条件に応じて栽培計画を立てるとともに育成する作物の観察を通して成長の過程を観察し、栽培管理を適切に工夫している。		②生物育成 ・生物育成のサイクル ・生物育成計画について	知識	・生物育成のサイクルや育成計画の立て方を知り栽培に見通しを持つことができる。	・生物育成のサイクルを知り、栽培に見通しを立てることができる。	
	○生物の適切な管理を行い、知識を身につけさせる。	生活や技術の知識・技能 ・作物に応じた適切な管理作業ができる。		③作物の育成 ・栽培ごよみについて ・栽培環境について ・土壌の性質と施肥 ・育苗と植え付けについて ・定植後の管理	態度 思考 判断 技能	・環境に対する負荷の軽減や安全な栽培方法を検討し、新しい発想を生み出し活用している。 ・条件に応じて作業の手順や肥料を適切に選択し、栽培計画を立てている。	・安全に配慮して栽培活動に取り組むことができる。 ・手順を守り施肥を行い、計画を立てることができる。	
		・生物を取り巻く環境や生物環境が生物に及ぼす影響や作物の育成に関する条件及び育成環境を管理する方法についての知識を身につけている。 ・生物育成に関する技術と社会や環境との関わりについて理解している。		・生物育成に関するレポート ・生物育成と社会	技能 思考 表現 技能 態度	・日本の農業、酪農、水産業、林業などに関するレポートを作成し、生物生産する社会とのつながりを学び、まとめる。 ・生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解している。	・生物生産について社会とのつながりについて調べ、知ることができる。 ・生物育成が社会や環境に果たす役割について知ることができる。 ・調べたことをまとめ、課題を知ることができる。	